

九州の森と林業

No.156 2026.6

九州地域の在来スズメバチの分布と外来種

森林動物研究グループ 佐山 勝彦

はじめに

ハチ刺され被害が社会的な問題として取り上げられるため、スズメバチは恐れられ、忌み嫌われる昆虫となっています。一方、ほとんど知られていませんが、農林業害虫を含む他の昆虫類の捕食者（天敵）などとして生態系で大切な役割を果たしています。このように、スズメバチは私たちにとって重要な意味をもつ昆虫ですが、日本国内には意外と多くの種が生息しているうえ、近年、九州地域では外来種による影響も懸念される状況になっています。そこで今回は、九州地域における在来スズメバチの分布と外来種について、最近の情報も含めながらご紹介します。

九州地域のスズメバチ各種の分布

九州地域（九州7県と沖縄県）には、在来種9種と外来種1種のスズメバチが分布しています。在来種9種の内訳は、大型のスズメバチ属 *Vespa*（以下、*V.*と略）の6種と、小型のクロスズメバチ属 *Vespula*（以下、*Vl.*と略）の3種になります。そして外来種1種は、約15年前に長崎県の対馬島に侵入して定着したスズメバチ属のツマアカスズメバチ（学名：*V. velutina*）です（佐山 2020）。

在来のスズメバチ9種の分布状況（佐山ら 2026; 山根 2026）は、以下のとおりです。

1) オオスズメバチ *V. mandarinia* は九州本土のほか、対馬島、福江島、種子島、屋久島に分布し、屋久島が国内の南限になります。

2) キイロスズメバチ *V. simillima xanthoptera* は九州本土のほか、対馬島と屋久島に分布し、屋久島が国内の南限になります。

3) コガタスズメバチ *V. analis* は九州地域に分布し、3亜種（地域個体群）に区別されず（写真1）。九州本土と対馬島、福江島、甌島列島、大隅諸島（種子島、屋久島、口永良部島）に分布する本土亜種（ヤマトコガタスズメバチ *V. analis insularis*）、奄美群島と沖縄諸島に分布する中琉球亜種（リュウキュウコガタスズメバチ *V. analis eisa*）、そして石垣島と西表島に分布する八重山亜種（ヤエヤマコガタスズメバチ *V. analis nagatomii*）です。



写真1 生垣につくられたコガタスズメバチの巣（2024年7月9日：熊本市）

4) モンスズメバチ *V. crabro* は九州本土に分布していますが、各地とも個体数は少なく、記録もわずかです（河野・山根 2014; 後藤ら

2019; 喜多・古川 2021など)。鹿児島県本土が南限になります。

5) ヒメスズメバチ *V. ducalis* は九州地域に分布し、3亜種(地域個体群)に区分されます。九州本土と福江島、屋久島、口永良部島、中之島、奄美大島、徳之島に分布する本土以南本土亜種(ヤマトヒメスズメバチ *V. ducalis pulchra*)、対馬島に分布する対馬亜種(ツシマヒメスズメバチ *V. ducalis esakii*)、そして石垣島と西表島に分布する八重山亜種(ヤエヤマヒメスズメバチ *V. ducalis loochooensis*)です。

6) ツマグロスズメバチ *V. affinis* は、宮古島、多良間島、石垣島、西表島、与那国島などの先島諸島に分布しています。

7) ヤマトクロスズメバチ *Vl. flaviceps lewisii* は、これまで単に「クロスズメバチ」とよばれてきました。別名「アジアクロスズメバチ日本亜種」ともいいます。九州本土のほか、対馬島、種子島、屋久島に分布し、屋久島が国内の南限になります(写真2)。



写真2 樹液を吸汁するヤマトクロスズメバチの働きバチ(2024年8月9日:熊本市)

8) シダクロスズメバチ *Vl. shidai* は、九州本土、大隅諸島、奄美群島に分布し、次の2亜種に区分されます。九州本土と屋久島に分布する本土亜種(シダクロスズメバチ *Vl. shidai shidai*)と奄美大島および加計呂麻島に分布する奄美群島亜種(アマミクロスズメバチ *Vl. shidai amamiana*)です。なお、アマミクロスズメバチは、巣の中に複数の女王バチが存在する「多女王制」の社会で、複数年にわたって営巣を継続するという特異な生態を有することが明らかになっています(山根・前田 2015)。

9) ツヤクロスズメバチ *Vl. rufa schrenckii* は

九州本土に分布しますが、熊本県(五家荘、白髪岳)(鮫島・山根 1993)と宮崎県(高千穂)(岩崎 編 2020)などの高標高地でしか確認されていません。

定着した外来種：ツマアカスズメバチ

2012年に長崎県対馬市(対馬島)で初めて確認されたツマアカスズメバチは、現在では同市に定着しています(佐山 2020)。その結果、在来種のキイロスズメバチが減少する影響が出ています(山崎ら 2020)。九州本土では2015年に福岡県北九州市、2018年に大分県大分市、2022年に福岡県福岡市で、それぞれ巣が見つかりました。懸命な駆除活動の結果、その後ツマアカスズメバチは本土では確認されておらず、定着には至っていません。しかしながら、営巣可能な女王バチが、常に九州本土へ侵入してくる状況にあります。そして、人目が付きにくい地域に侵入したときには、人知れず定着する可能性が高いと考えられ、普段からの情報収集が欠かせません。なお、これまで国内で確認されているのは、本種の1亜種であるムナグロツマアカスズメバチ *V. velutina nigrithorax* (インド~中国に自然分布)に該当します。

新たな外来種：アジアクロスズメバチ

沖縄県では、これまでクロスズメバチ属の種は記録がなく、分布していないと考えられてきました。ところが、2021年5月に名護市の多野岳で、クロスズメバチ属の種と推測される女王バチが採集されました(名嘉・山根 2021)。ヤマトクロスズメバチ(アジアクロスズメバチ日本亜種)やシダクロスズメバチの斑紋(白色)とは異なり、その個体の斑紋は黄色を呈していました。そこで、詳しく同定した結果、アジアクロスズメバチ大陸亜種 *Vl. flaviceps flaviceps* であることが判明しました。その後、同年3月にオスバチが本部町で採集されていたことがわかり(渡辺ら 2021)、2023年7月には大宜味村で働きバチが採集されました(寺山ら 2024)。このような状況から、すでに本種の沖縄島北部での定着が示唆されています。

国内由来の外来種：コガタスズメバチ

2021年に鹿児島県内の喜界島で、それまで分布記録がなかったコガタスズメバチの巣が

初めて確認されました（山室ら 2021）。その後の調査により、この巣は奄美群島の他の島から侵入した女王バチによって営巣された可能性が高い、と推測されています（高橋 2026）。

このように国内の在来種であっても、本来の自然分布域を大幅に超えて国内の他地域に侵入した場合には、その地域にとっては外来種となります。そして、これらを外国からの外来種（＝国外外来種）と区別して、「国内由来の外来種（＝国内外来種）」とよんでいます（自然環境研究センター 編著 2019）。

おわりに

以上、最近の情報も含めながら、九州地域に在来のスズメバチ各種の分布と外来種について紹介してきました。近年、スズメバチをめぐる状況は、国内外を問わず急激に変化しつつあります。ツマアカスズメバチ（ムナグロツマアカスズメバチ）やアジアクロスズメバチ大陸亜種といった国外外来種に加えて、コガタスズメバチのような国内外来種も顕在化してきています。とくに島嶼地域の生態系は脆弱であるため、国内外来種であっても重大な悪影響を及ぼす可能性があります。

九州地域には、コガタスズメバチやヒメスズメバチの亜種が多く分布しています。また、アマミクロスズメバチは極めて特異な生態を有するシダクロスズメバチの 1 亜種ですが、今後の研究の進展によっては、種に格上げされる可能性もあります。亜種（地域個体群）の間には、遺伝的・形態的変異が存在することが多く、生物多様性の保全を考えていく上では、このような亜種レベルでの変異（多様性）を維持していくことも重要と考えられます（佐山ら 2026）。

引用文献

後藤聖士郎ら (2019) モンスズメバチ、九州大学伊都キャンパス（福岡県）に産す. *Pulex* (98): 794–795.
岩崎郁雄 編 (2020) 宮崎県昆虫目録. 宮崎昆虫調査研究会, 宮崎.
河野太祐・山根正気 (2014) 南九州におけるモンスズメバチの多産地. *Nature of Kagoshima* 40: 107–109.
喜多章仁・古川雅通 (2021) 佐賀県におけるモ

ンスズメバチの採集記録. 佐賀の昆虫 (55・56): 363.

名嘉猛留・山根正気 (2021) クロスズメバチ属の沖縄県からの初記録. *Nature of Kagoshima* 48: 95–98.

鮫島利尚・山根正気 (1993) 九州におけるツマクロスズメバチの越冬場所の記録. *Satsuma* (108): 58.

佐山勝彦 (2020) 九州における外来スズメバチの侵入・定着. *九州の森と林業* (131): 1–3.

佐山勝彦ら (2026) スズメバチ亜科の種と亜種の学名・和名対照表. *スズメバチの生物学* (高橋純一・佐賀達矢 編): 34–39, 北隆館, 東京.

自然環境研究センター 編著 (2019) 最新日本の外来生物. 平凡社, 東京.

高橋純一 (2026) 外来種となったスズメバチ. *スズメバチの生物学* (高橋純一・佐賀達矢 編): 272–290, 北隆館, 東京.

寺山守ら (2024) クロスズメバチ基亜種（ハチ目, スズメバチ科）の沖縄県からのワーカーに基づく記録. *日本生物地理学会会報* 79: 9–12.

渡辺恭平ら (2021) 沖縄島で確認されたクロスズメバチ名義タイプ亜種 *Vespula flaviceps flaviceps* (Smith, 1870) (ハチ目, スズメバチ科) のオス個体と本亜種の野外定着の可能性. *Nature of Kagoshima* 48: 153–160.

山室一樹ら (2021) 沖永良部島・喜界島のコガタスズメバチ. *Satsuma* (168): 151–152.

山根正気 (2026) 日本のスズメバチ. *スズメバチの生物学* (高橋純一・佐賀達矢 編): 65–86, 北隆館, 東京.

山根正気・前田芳之 (2015) アマミクロスズメバチの特異な生態と分布の由来. *南西諸島の生物多様性、その成立と保全* (日本生態学会 編): 12–15, 南方新社, 鹿児島.

山崎和久ら (2020) 対馬で起きているツマアカスズメバチによるキイロスズメバチへの繁殖干渉. *昆虫と自然* 55: 26–28.

立田山森のセミナーのお知らせ

立田山森のセミナーは、森林を身近に感じていただくために、森林のいろいろなことについて、わかりやすく説明するセミナーです。

開催日・テーマが決まり次第ホームページ等を通じてお知らせしますので、どうぞお気軽にご参加ください。

昨年度のセミナーの様子

<第80回>

開催日：令和7年9月27日(土)

テーマ：森林の気候緩和機能ってなに？

担当：山地防災研究グループ

募集：15名程度(参加者：6名)

屋外で測定器具を使って気温や日射などの気象値を測り、森林の公益的機能の一つである気候緩和機能について学んでいただきました。



<第81回>

開催日：令和7年11月8日(土)

テーマ：立田山はドングリの森

担当：森林生態系研究グループ(暖帯林)

募集：20名程度(参加者：11名)

戦後の原っぱや藪のような状態から、シイやカンが大きく育ち立派な森となった立田山の森林について、知識を深め、会場に用意されたどんぐりを観察し、形や種類の違いを学んでいただきました。



<第82回>

開催日：令和8年2月28日(土)

テーマ：顕微鏡で覗いてみよう！植物病原菌の世界

担当：森林微生物管理研究グループ(樹病)

募集：10名程度(参加者：10名)

顕微鏡の使い方を学び、植物の病気の主な原因である菌類や細菌などの「微生物」を観察しました。



地域連携推進室から

○森の展示館について

開館 平日のみ(土日祝日・年末年始は閉館)
9:30~16:30(12~13時除く)

入館 無料

予約 不要(団体様または説明員による解説を希望される場合は、事前の予約が必要です※)
※業務都合によりお受けできない場合がございます

夏休み期間中は、土日祝日も開館予定です。
詳細が決まり次第ホームページに掲載します。

九州の森と林業 No.156

令和8年6月1日

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所九州支所

〒860-0862

熊本県熊本市中央区黒髪4丁目11番16号

Tel 096 (343) 3168 (代)

Fax 096 (344) 5054

ホームページ

<https://www.ffpri.go.jp/kys/>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。